

キラットさん



月居服装専門学校
高等過程 3年

山内 恵里子 さん

今回は、山内恵里子さんに登場していただきました。本人によれば、「マイペースでおつちよこちよい、決して明るいとはいえない」性格だそうです。どちらかといえば人の話をじっくりと聞くタイプで、そのため話を伺っている最中は、終始恥ずかしがりながらのインタビュになりました。でも、一生懸命に答えてくれる姿は、落ち着きのあるしつかりとした面も感じさせてくれました。

山内さんは二年生の後期と三年生の前期に生徒会長を務めました。みんなからの信望が厚く、二期連続の生徒会長への選出は、両期とも満場一致で決まったそうです。でも、八人ほどいる生徒会執行部のまとめ役としての悩みもありました。学校全体が明るく楽しくなるようにと山内さんは頑張っていました。本人は、なかなか意見の飛び交う会議にはなつてくれません。仕方なく指名して意見を求めることもしばしば。特に学校祭や、年に二回の球技大会の内容を決めるときなどは、頭を悩ませていたようです。引退した今、後輩には活発な生徒会を望んでいます。

授業についても伺いました。最近作ったテラードスーツが、山内さんが一番気に入った作品だそうです。ほかにも家族のために母にはパンツを、おばあちゃんにはキユロットを作つてあげたそうですが、実践では一枚も二枚も上手の二人からは、ほめてもらうどころか注文を出されてしまいました。苦手なのは手芸の授業です。アップリケやテンプルセンターなどを作りましたが、細かくて同じような作業が続くのであきてしまうそうです。今は最近流行している手作りのぬいぐるみに挑戦したいと話してくれました。

卒業後は販売への就職を希望しているということで、これからが正念場です。人と接するのが好きという山内さんは、販売の仕事を通じていろんな人と接したいそうです。そうすることで、自分が明るくなれると考えています。就職先が決まるのが今年一番の目標だそうです。話を伺いながら、山内さんならきっと今年の目標は達成できると確信しました。



私の本棚

中央図書館新着図書



『モリー先生との火曜日』

ミッチ・アルボム著
NHK出版



スポーツ評論家の著者は、十六年ぶりに大学時代の恩師に再会する。モリー先生は、難病で動かなくなった体で人とふれあうことを楽しんでいた。「あわれむより、君が抱えている問題を話してくれないか」。モリーは、著者に毎週火曜日をくれた。死の床で行われる授業に教科書はない。テーマは「人生の意味」について。

一般書

- ◇部長の大晩年(城山三郎) ◇漂流者(折原一) ◇朽ちた樹々の枝の下で(真保裕一) ◇いのちまんだら(灰谷健次郎) ◇スミス海感傷(藤沢周) ◇定本岳物語(椎名誠) ◇親亀こけたら(清水義範)
- ◇セラフィムの夜(花村萬月) ◇燃える地の果てに(逢坂剛) ◇霞町物語(浅田次郎) ◇「紅藍の女」殺人事件(内田康夫) ◇インターネット中毒(キンバリー・ヤング) ◇サモア幻想(高樹のぶ子) ◇天皇の四十七士(泉秀樹) ◇病氣志願者(マーク・D・フェルドマン他) ◇早春の故郷を離れて(内海隆一郎) ◇給食ファクトリー(野崎六助) ◇金のゆりかご(北川歩美) ◇つかず離れず、猫と私(岸本葉子) ◇燻り(黒川博行) ◇らんぼう(大沢在昌) ◇ハッセ魂の手紙(ヘルマン・ヘッセ)
- ◇馬と話す男(モンティ・ロバーツ) ◇老人よ、花と散れ(三浦朱門)
- ◇癒されて生きる(柳澤桂子) ◇脳をきたえる(篠田友孝) ◇中高生の薬物汚染(水谷修ほか) ◇生麦事件(吉村昭) ◇おいしいお米の栽培指針(堀野俊郎) ほか

児童書

- ◇ネコが手をかすレストラン(茂市久美子) ◇ワイワイはたけはおおさわぎ(つちだよしはる) ◇酪農家族(立松和平) ◇犬のウイリーとその他おせい(ペネロピ・ライヴリー) ◇ラヴ・レター(あさのあつこ) ◇森は生きている(サムイル・マルシャーク) ◇まるごとどんぐり(大滝玲子) ◇ふしぎなぼうしやさん(岡野薫子) ほか

- ◇1月のテーマ関連図書コーナー
- ◇1月の中央図書館の休館日: 1日、2日、3日、15日、17日、28日